

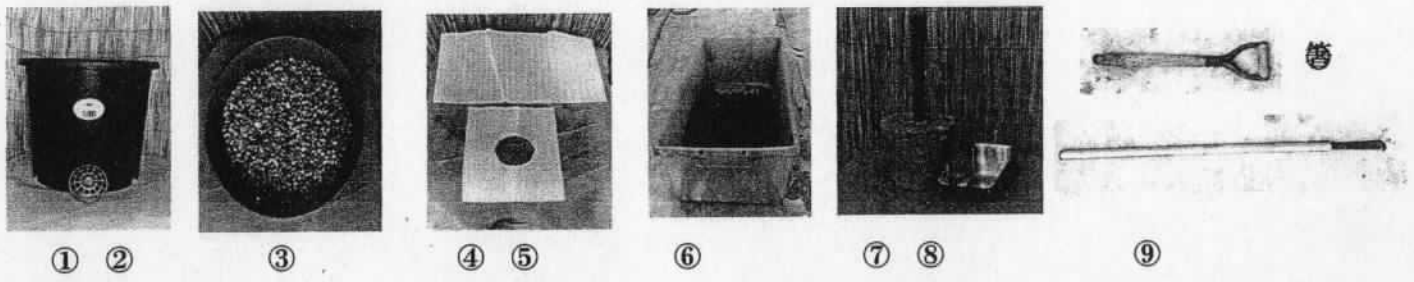
菊栽培定植期の管理

1 五号鉢から大鉢（十号鉢）へ定植の適期

五号鉢に移植してから25日~30日たつと、鉢じゅうくまなく根が張り詰めるので、根詰まりする前に大鉢〔十号鉢〕に定植する

2 定植作業準備・作業資材及び用具（移動鉢数の確定）

- ①十号鉢 ②鉢底フタ ③軽石 ④ウレタン底マット ⑤ウレタン鉢内マット ⑥培養土 ⑦五号空鉢 ⑧土入れ ⑨土固め具3（大のつき棒〔長さ1,8m、重量10kg〕・小つき棒（スコップ柄） 太い箸 ⑩ジョーロ



③定植の手順



①底フタ ウレタン底・鉢内に当てる



②軽石を入れる 鉢底を水平にする



③培養土をいれ 大突き棒で固める



④移植鉢で高さ決める 4の枝から鉢淵迄8cm



⑤高さの位置に空鉢を乗せる



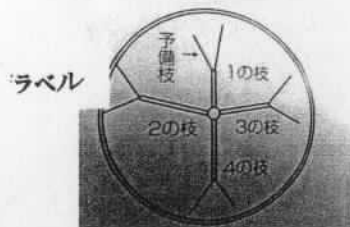
⑥空鉢の周りに土を埋め 大・小突き棒で固める



⑦空鉢を抜き取り 底部分を箸で突く



⑧移植鉢から鉢を外し空鉢の後え移す



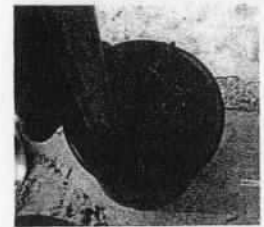
⑨移植苗の枝位置 2の枝が正面ラベルに



⑩移植後太い箸で突き用土の結合を図る



⑪用土小突き棒で固める



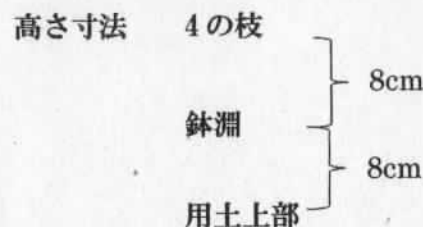
⑫大突き棒で固め 用土を水平にする



⑬ 名札を付ける



⑭水をたっぷり灌水完了



灌水時 用土上部と鉢淵の8cm部分満水となる

菊栽培小鉢期の管理

1 五号鉢への鉢上げの適期

さし芽後2~3週間したら2cmくらいに発根して鉢上げの適期を迎えます。

2 鉢上げの準備 (鉢上げ予定数を基準に)

五号鉢。底網 さし芽用土 土入れ ジョーロ 鉢置き場 小砂利 肥料さし

3 鉢上げの手順



①鉢底に網を置く



②用土を7割程入れる



③指で固める



④苗を中心に置き
根先は下向きに



⑤鉢淵2cm下がりで
残り用土3割入れる



⑥ラベルを付ける
日日を記入する



⑦水をたっぷり鉢底
から流れる程



*用土が細かい場合は
小砂利を底網が隠れる
程に入れ②の手順に

⑧準備された置き場所に移動 3~4日程スタレー重がけ 様子 (しおれ加減) を見る

4 水のやり方

水やりは小鉢上げ3~4日後から行い 芯(根)に掛け鉢底から流れる程、その後は鉢をもち軽く感じた鉢に水をやる 重さの確認方法は ⑦手順で水をたっぷり鉢底から流れる状態が重さの基準で判断する 尚5号鉢はあまり過乾にせず すくすくと生長するように心がける

5 Bナインの散布

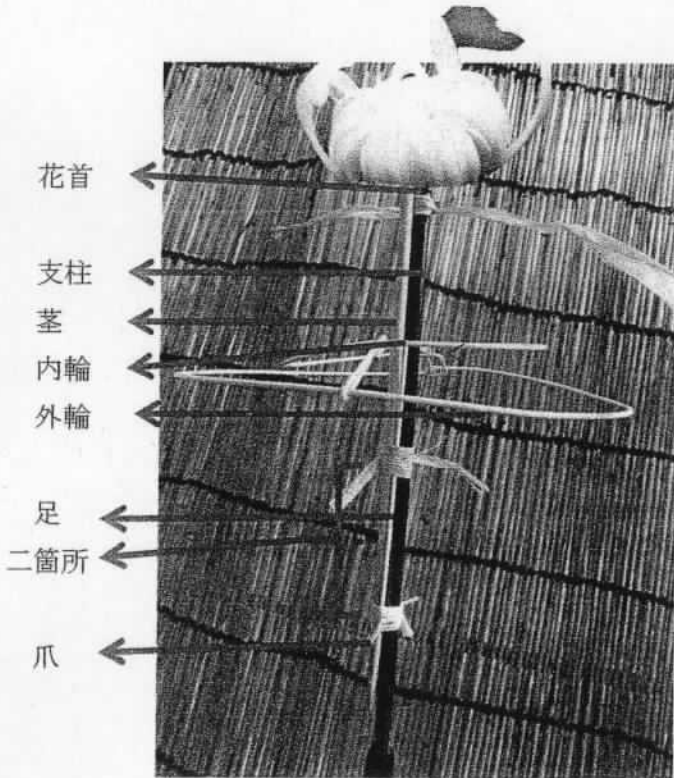
鉢上げ後5日程経過 草丈が10cmにのびたら、Bナイン1000倍を穂先にかける 散布は夕方5時以降に行う

6 一回目の摘芯

Bナイン散布後5~7日頃 つまようじで穂のローソク状の芯をピットハネル(一度で終える)感覚で行う

* 輪台の取り付け方

- 輪台の作業材料 輪台 (15cm) 色 (赤・黄・白) 花数を準備
縛る紐としてラフィヤー又はビニタイを準備
- 取付け時期 花卉が3~4倒れた頃



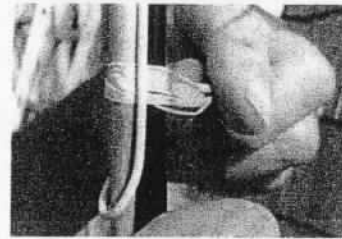
写真の箸を茎に想定して下さい

輪台の調整 (対象は厚物)

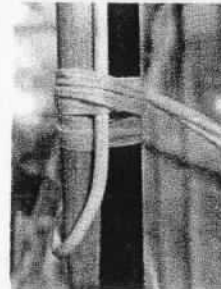
開花が進み 外輪の花弁が一回り並んだ頃から一日おきに下げていき 大高盛りになるのを助ける
 尚内の輪より外輪が低くなるように加工し盛り上がり強調することでより美しくなる
 管物は 花卉に曲がりぐせをつけずまっすぐに伸ばしたいので、初めは垂れ下がったままにしおき
 七分咲きになったら花卉の長さより10センチくらい内側にくる大きさの輪台を付ける、この作業
 は一人でやりにくいので、塗り箸二本で花卉を持ち上げてもらって、すばやく輪台をつける

A 取付け順序

- ①花首いっぱい支柱を合わせ (支柱が後位置)
茎と支柱をラフィヤーでしばる
- ②輪台の足の中に茎を入れ、茎と支柱を二度
二箇所縛る、最初は内輪を花首から
3cm下げ 茎と支柱をしぼる



二度目は 輪台足・茎・支柱をしぼる

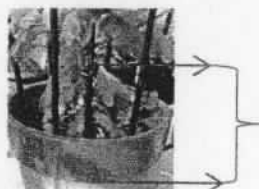


二度縛ることで輪台の
上下移動ができる

* 丈合わせ ビーナイン (伸長抑制剤) ジベラ (伸長剤) 通常の使い方はマニュアル8ページを参照
 ビーナインは茎の高低差は5cm程度の伸長抑制ができます

- ①ビーナインの使用時期は 9月20日頃 蕾があずきの大きさ程度に伸びた時点
花首に1000倍を掛け様子を見る
- ②微調整は支柱の継ぎ目下のくくり紐を全部解き、支柱の中棒を持ち高低差を調整する
- ③誘引後伸びない枝に、液肥 (アミノ液肥) 500倍を3~5日間隔で、育成の遅れた枝芽
先のみに散布し 育成を促進する

* 下脇芽は伸ばす



用土上部から4の枝の空間の脇芽は そのまま伸ばし、増し土時に切る 切口から根が出る 地際から生える上根と共に蕾をおおきくし、大花を咲かせる根となります、